

仏典とインドの古典を読む会

開講のお知らせ

講 師 蓑輪 顕量 先生（東京大学教授）

開 講 日 平成 28 年 10 月 19 日（水），11 月 2 日（水），11 月 16 日（水），12 月 14 日（水）全 4 回，いずれも 17:30 - 19:30

講義内容 本講座は、有名な仏典やそれらと相互に影響を与えあったインドの古典を、今まで原典に一度も触れたことのない人にも分かるように、1 年に 3～5 回の講義で読んでいくものです。

本年度は、昨年度に引き続き、東京大学教授の蓑輪顕量先生に講師をお願いしました。テーマは、「良遍の『真心要決』を読む」です。わかりやすく解説していただきながら、じっくりと講読していただく予定です。

講師による内容紹介 中世鎌倉時代の中頃に、法相と禅とを比較した僧侶が登場した。それが法相宗の良遍である。彼は遁世をした僧侶であり、『観心覚夢鈔』や『法相二卷抄』の著者としても有名である。その彼が、中世に日本に紹介された禅宗と法相宗の相違について、書いた著作がこの『真心要決』である。本書は、あまり研究の蓄積のない著作であるが、良遍が当時、悟りをどのようなものとして考えていたのか、皆さんと共に解明していきたい。なお、テキストは、こちらでプリントを用意し、配布する予定である。事典類は、『岩波仏教辞典』があれば良い。

備 考 本講座は会員外の方でもご聴講いただけます。ただし、会員外の方のみ参加費 1,500 円〈全講義分〉を初回講義時に納入していただきます。

テキスト・資料等はこちらで準備をし、コピーを実費にて配布いたします。資料準備の都合上、聴講ご希望の方は、事前に当会までご連絡いただきますようお願いいたします。